

月次レポート

第7号

2009年6月9日作成

ユニオンファンド

追加型株式投資信託／ファンド オブ ファンズ
(分配金再投資専用)

～ マークのなかに託した私たちの想い ～

4世代(おじいちゃん・おばあちゃん、熟年世代、勤労世代、お子さんやお孫さん)をあしらいました。
ハンドinハンドで親近感や繋がり・絆を深め、
幸せの輪をひろげようという想いを込めています。



Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2009年6月9日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況

	2009年5月29日現在	基準価額と純資産額の推移
基準価額	11,252円	
純資産額	3億2,285万円	

期間別騰落率(%)

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
+11.73%	+30.54%	+22.98%	—	+12.52%

組入れファンドの内訳 (組入比率は5/29付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標組入比率	目標比
さわかみF	日本	19%	20%	-1%
キャピタルF	欧米	26%	27%	-1%
ハリスF	欧米	18%	18%	±0%
コムジエスF	イマージ	36%	35%	1%
キャッシュ	—	2%	—	2%

ファンドマネージャー コメント

投資環境と見通し

<インフレ・デフレと株価>

「インフレ・デフレと株価」について先月に続きもう少し考えてみたいと思います。

「インフレ・デフレと株価」の関係は次のように整理することができます。

景気変動の中で「株価が上昇するケース」は、「良いインフレ」期および「良いインフレへの期待」期が最も多いと言えます。・・・この時期は企業業績向上が見込めるため株価が上昇しやすくなります。

一方、「株価が下落するケース」は次のような場合です。・・・企業業績が低迷しがちなため株価下落につながるが多くなります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

①「悪いインフレ」期	「金利引き上げ」による景気後退リスクが発生。
②「資源インフレ」期	コスト上昇分を転嫁できず、業績悪化へ。
③「ハイパーインフレ」期	強烈的な金融収縮発生により企業活動が麻痺。
④「デフレ」期	経済成長低迷により企業業績も低迷。
⑤「バブル崩壊」期	突然の売上減少で、業績急落。

※以上の詳細については、前号(第6号)の『5月14日作成 月次レポート』をご参照ください。

＜景気変動パターン＞

上記のうち「資源インフレ」「ハイパーインフレ」「バブル崩壊」期は業績が大きく落ち込み株価も大幅に下落する傾向にありますので特に警戒する必要がありますが、その発生はいわば「非正常」な景気変動パターンと言えます。

「通常」の景気変動は下記のような循環と思われます。

- ①「良いインフレ」期・・・・・・・・・・ 好景気・緩やかな物価上昇＝株価上昇
 - ②「資源インフレ」期・・・・・・・・・・ 過熱景気・大幅な物価上昇＝株価下落開始
 - ③「デフレ」期・・・・・・・・・・ 不景気・物価低迷＝株価下落
 - ④「良いインフレへの期待」期・・・・ 景気底打ち・物価低迷＝株価上昇開始
- そして①の「良いインフレ」期に戻る、という循環です。

今回の世界的景気変動は上記に沿って次のように説明できます。

- 「良いインフレへの期待」期・・・・ 2003年：「IT(情報通信)」バブル崩壊を受け世界的な金融・財政政策が動向
- 「良いインフレ」期・・・・・・・・・・ 2005年：世界的な住宅需要を背景に好景気入り
- 「悪いインフレ」期・・・・・・・・・・ 2007-8年：景気過熱(住宅バブル)から金利上昇・原油高へ
- 「デフレ」期・・・・・・・・・・ 2008-9年：住宅バブル崩壊で「100年に一度の大不況」に
- 「良いインフレへの期待」期・・・・ 2009年：世界的かつ大規模な金融・財政政策が動向

したがって今後は、上記景気変動パターンに基づけば「良いインフレ」期に向かって世界経済が進み、株価上昇も期待できることとなります。

【ユニオンファンドの投資戦略】

ところで、最近「先進国デフレ」「新興国インフレ」と言われることが多くなりました。

先進国は「豊かさ」から来る「人口停滞」「消費鈍化」「雇用減少」問題を抱えています。背景は「高賃金」による「空洞化」にあります。グローバル化・ネット化の中で先進国企業は「低賃金」を求めて新興国に生産基地を広げています。この傾向は「賃金格差」がなくなるまで継続すると言われていています。このため先進国＝「低成長・デフレ」、新興国＝「高成長・インフレ」の図式はまだまだ続くものと思われます。

したがって先進国・新興国の景気変動パターンにも当然違いが出て来るものと思われます。

即ち、先進国は現在の「良いインフレへの期待」期を潜り抜けたとしても、高成長への壁は厚く、「良いインフレ」期にたどり着くにはかなり時間がかかりそうです。

これに対して新興国は「低賃金」「雇用増」「消費増」を背景に、いち早く「良いインフレ」期にたどり着き、企業業績拡大・株価上昇を実現できる環境にあると言えます。

このような観点から、ユニオンファンドではこれまで新興国の投資配分を多めにしてきました。当分この方針で臨みますが、新興国の経済規模は小さいため景気過熱から「悪いインフレ」期入りするのも早いと思われます。したがってその過熱時期を早めにとらえることに留意し、その場合はタイムリーに新興国比率を低めにすることでリスク軽減に努めていきたいと考えています。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ 地域別「目標」投資配分としては、世界の株式市場シェアに比べて「日本」と「エマージング」のウエイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「エマージング」: 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

5月も先月と同じ投資配分で運用しました。

■ 長期投資の観点から現状はまだ魅力的な水準にあると判断し、引き続き「強気」スタンスを継続しています。

5月中の組み入れ比率は92~99%で推移し、平均96%、月末時98%となっています。

■ 5月も株式市場は順調な展開でした。

世界的な同時・巨額の景気刺激策が効果を現し始め、「住宅・自動車・在庫・雇用」などに底入れ機運が広がりました。「大恐慌はない」「来期には景気回復が期待できる」という安心感が、「銀行不良債権問題」や「GM・クライスラー問題」などの懸念材料を抑え、株価はジリ高で推移しました。

■ ユニオンファンドは3月以降順調に上昇を続け、5月は11,000円台の基準価額で推移しました。

5月の具体的な推移としては、4月末の10,070円を安値に以後急騰して初旬(5/11)に高値11,233円を付け、その後もみ合いの後、5月末に最高値11,252円を付けました。

■ 今後の運用方針

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきますが、投資妙味あるファンドへの目配りも続けます。

● 目標組入比率

現在の目標組入比率を維持します。

・・・さわかみF:約20%、キャピタルF:約27%、ハリスF:約18%、コムジェストF:約35%

● 株式組入比率

原則「フル運用」(98%程度)としますが、新規資金の増加や組入単位との兼ね合いなどから、多少低めになることがあります。

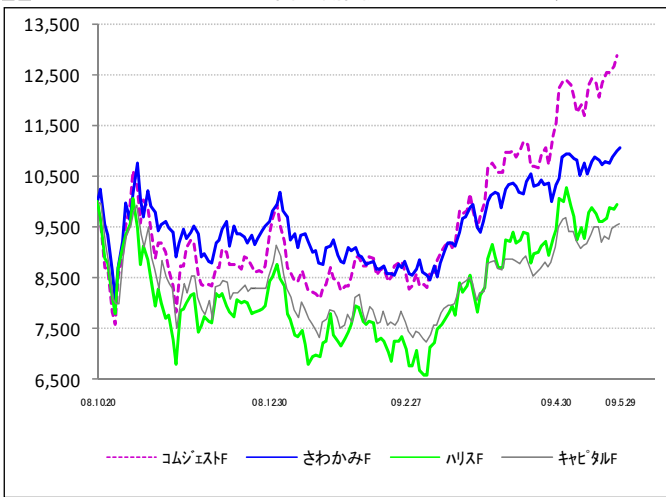
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008.10.20=10,000)



≫ 図1 基準価額推移

4ファンドとも3月以降急回復し、以後順調に上昇。
5月1ヶ月騰落率は次の通り。
・・・「コムジェストF:17.9%」、「ハリスF:10.2%」、
「さわかみF:10.0%」、「キャピタルF:8.0%」。

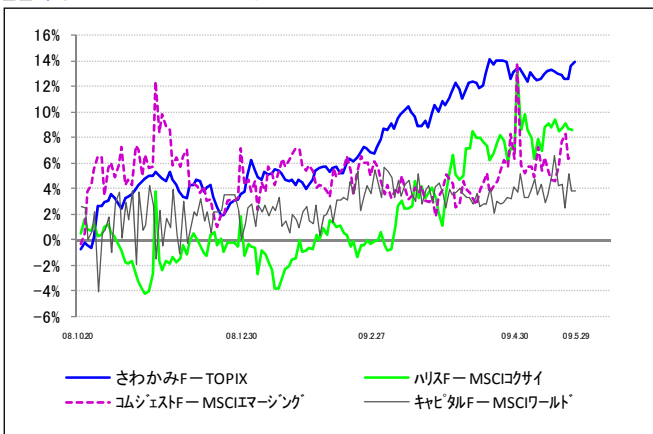
≫ 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」……輸出関連株の上昇などからインデックスを約14%凌駕。
「ハリスF」……金融株急騰などを受け約9%凌駕。
「コムジェストF」……銘柄選択効果などから約6%凌駕。
「キャピタルF」……安定的に約4%凌駕。

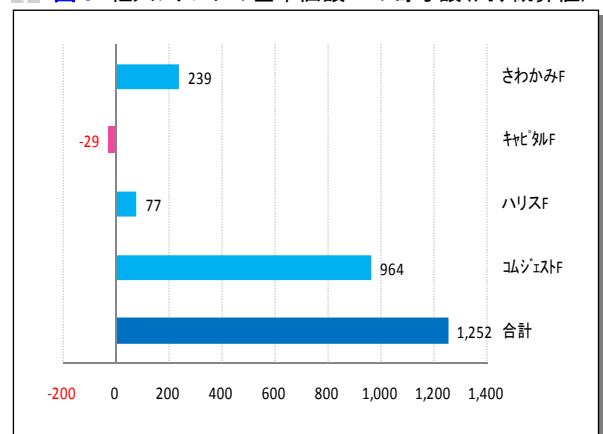
≫ 図3 寄与額

5月末の基準価額が11,252円となっているため、1,252円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り。「コムジェストF」が大きくプラス寄与。「さわかみF」、「ハリスF」もプラス。「キャピタルF」はほぼゼロ圏に。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



≫ 図4 時価総額シェア・目標投資比率

時価総額シェア……昨年10月を底に「エマージング」が上昇中。その分「欧米」が低下。「日本」は概ね横ばい。

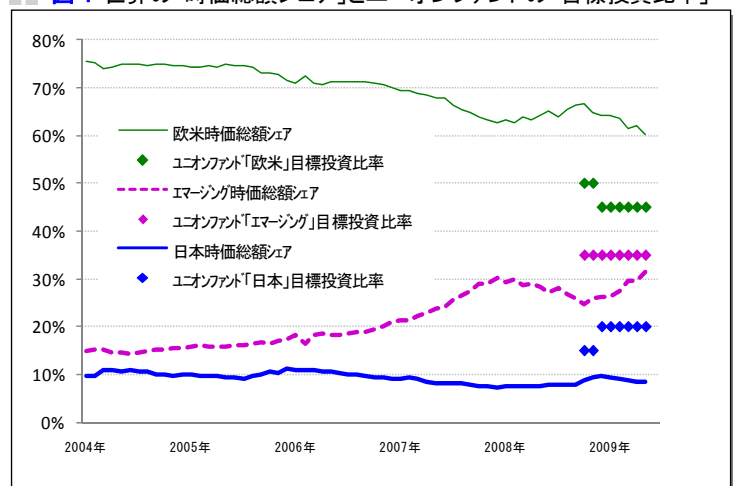
目標投資比率……変更なし。

日本 : 20% (シェア比+12%)
欧米 : 45% (シェア比▲16%)
エマージング : 35% (シェア比+4%)



運用部長 (ファンドマネージャー)
坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」:ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (CIF グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

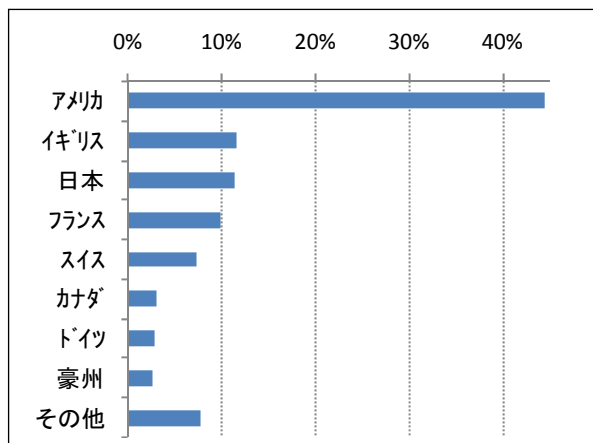
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 4 月末現在

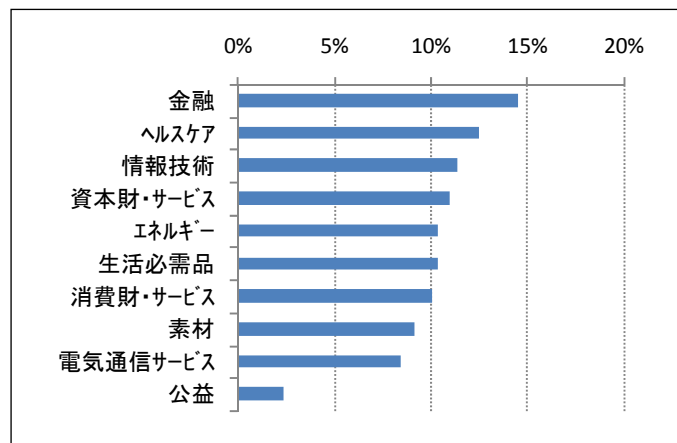
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Royal Dutch Shell	3.2%	オランダ	エネルギー	石油ガス
2	Roche	2.8%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
3	Bouygues	2.2%	フランス	電気通信サービス	通信大手
4	PepsiCo	2.1%	アメリカ	生活必需品	飲料大手
5	AT&T	1.7%	アメリカ	電気通信サービス	通信大手
6	Goldman Sachs	1.7%	アメリカ	金融	世界有数の投資銀行
7	Abbott Laboratories	1.7%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品・医療機器
8	Target	1.6%	アメリカ	消費財・サービス	小売チェーン大手
9	Allegheny	1.6%	アメリカ	素材	特殊金属
10	Google	1.5%	アメリカ	消費財・サービス	世界最大のネット検索
上位 10 銘柄		20.1%			
その他		75.4%			
キャッシュ		4.5%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 景気敏感の「金融」がトップ業種に(ヘルスケア・生活必需品が減少)。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

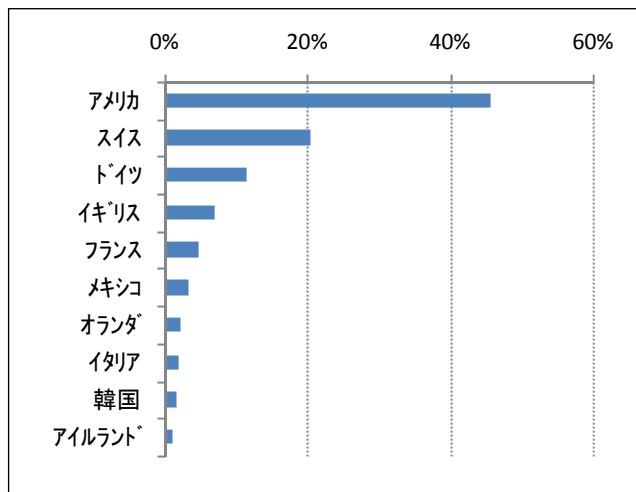
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2009 年 4 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	INTEL	6.8%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
2	HEWLETT PACKARD	4.5%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手
3	JPMORGAN CHASE	4.3%	アメリカ	各種金融	金融大手
4	ADECCO	4.2%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開
5	CREDIT SUISSE	4.2%	スイス	各種金融	金融大手
6	JULIUS BAER	4.0%	スイス	各種金融	プライベートバンク
7	BANK OF NEW YORK MELLON	3.9%	アメリカ	各種金融	金融大手
8	DAIMLER	3.7%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
9	CARNIVAL	3.6%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船
10	FINANCIERE RICHEMON	3.4%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・コングロマリット
上位 10 銘柄		42.6%			
その他 30 銘柄		51.8%			
キャッシュ		5.6%			

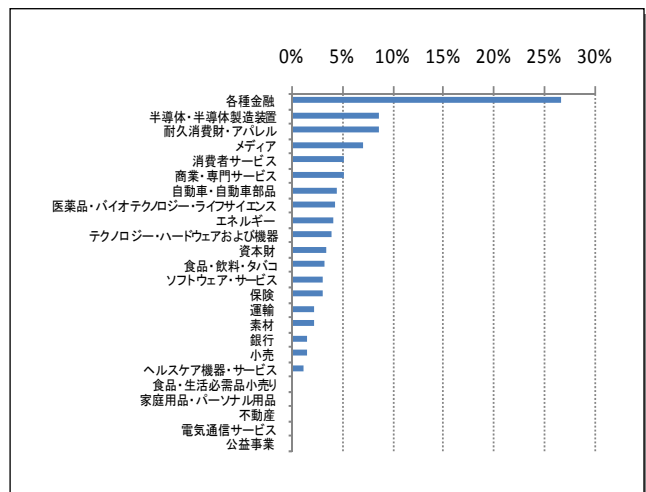
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2009 年 5 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本を除くグローバルに投資。
- ◆ 2007 年 7 月のファンド設定以来、「金融」を一貫して 3 割程度組入れ。
- ◆ 「金融」高位維持と景気敏感へのシフトがプラス寄与。
- ◆ 割安になったディフェンシブ(医薬品・食品など)に一部分散を開始。

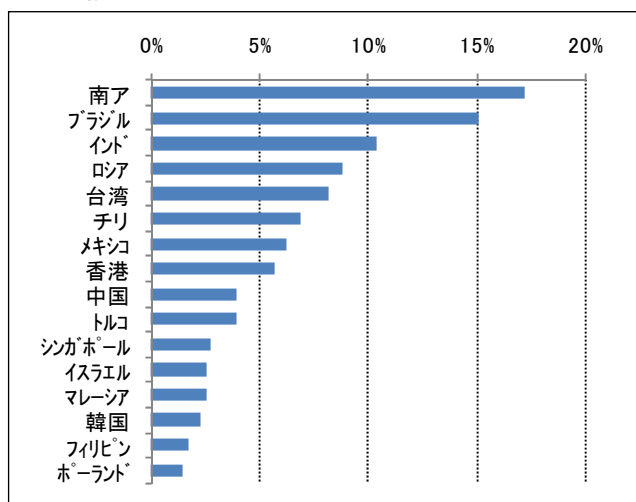
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2009 年 5 月末現在

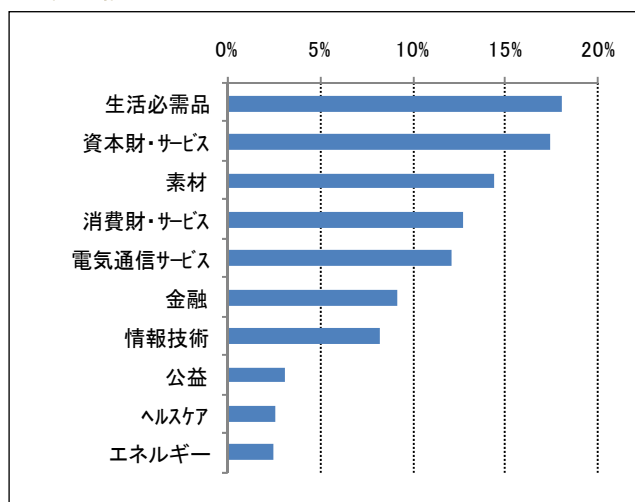
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	3.8%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	GAFISA	3.6%	ブラジル	消費財・サービス	住宅建設
3	EMPRESAS COPEC	3.6%	チリ	資本財・サービス	石油ガス・農林水産
4	MTN	3.6%	南ア	電気通信サービス	携帯電話会社
5	IMPALA PLATINUM	3.5%	南ア	素材	プラチナ鉱山
6	BHARAT HEAVY ELECTRICALS	3.3%	インド	資本財・サービス	総合インフラ関連
7	GOLD FIELDS	3.2%	南ア	素材	金鉱開発
8	JBS	3.1%	ブラジル	生活必需品	食肉加工
9	RUSHYDRO	3.0%	ロシア	公益事業	水力電力卸売り
10	CHEUNG KONG	3.0%	香港	金融	金融大手
	上位 10 銘柄	29.9%			
	その他 32 銘柄	66.4%			
	キャッシュ	3.7%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆新興国の割安な 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆財務体質が健全で情報開示の透明性が高い割安な企業に選別投資。
- ◆衣食住・インフラ等生活関連銘柄のウェイトが高い。
- ◆高成長新興国中心のポートフォリオ。
- ◆インドが株価急騰(与党総選挙勝利)で組入 3 位に浮上(前月 4 位)。
- ◆中国は低リスク・トップ企業に絞り込み。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

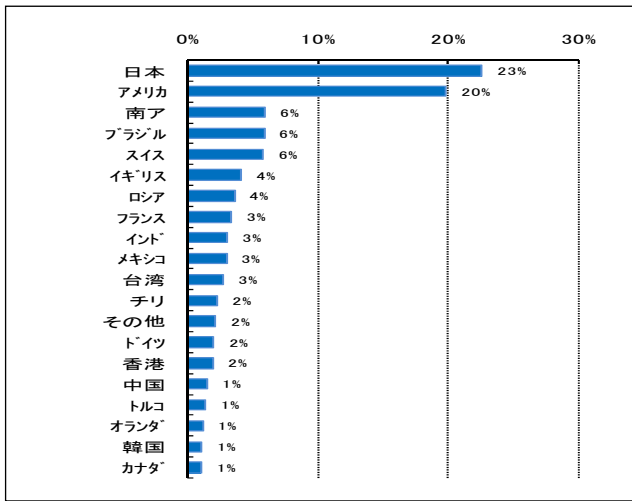
■株式組入上位 20 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 4 月末現在

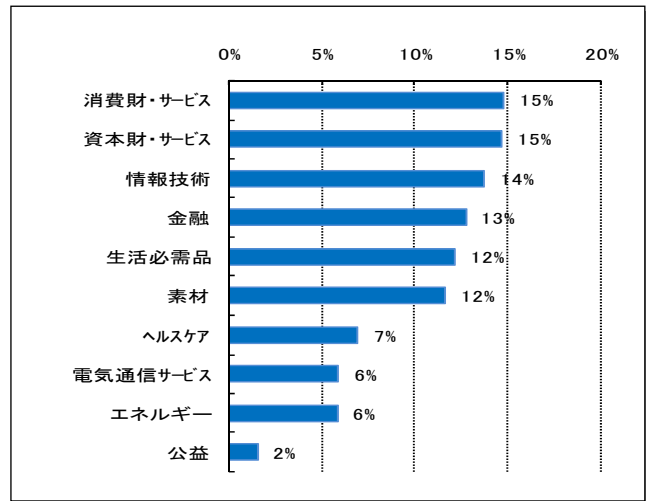
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	GAFISA	1.4%	ブラジル	消費財・サービス	住宅建設	コムジエトF
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR	1.4%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジエトF
3	MTN	1.3%	南ア	電気通信サービス	携帯電話会社	コムジエトF
4	INTEL	1.2%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
5	JBS	1.2%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジエトF
6	EMPRESAS COPEC	1.2%	チリ	資本財・サービス	石油ガス・農林水産	コムジエトF
7	IMPALA PLATINUM	1.1%	南ア	素材	プラチナ鉱山	コムジエトF
8	MAGNIT OJSC-SPON	1.1%	ロシア	生活必需品	小売	コムジエトF
9	GOLD FIELDS	1.1%	南ア	素材	金鉱開発	コムジエトF
10	CIPLA	1.1%	インド	ヘルスケア	医薬品	コムジエトF
11	BHARAT HEAVY ELECTRICALS	1.0%	インド	資本財・サービス	総合インフラ関連	コムジエトF
12	Royal Dutch Shell	0.9%	オランダ	エネルギー	石油ガス	キャピタルF
13	HEWLETT PACKARD	0.8%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手	ハリスF
14	JPMORGAN CHASE	0.8%	アメリカ	各種金融	金融大手	ハリスF
15	ADECCO	0.8%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開	ハリスF
16	CREDIT SUISSE	0.8%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
17	Roche	0.7%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手	キャピタルF
18	JULIUS BAER	0.7%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
19	BANK OF NEW YORK MELLON	0.7%	アメリカ	各種金融	金融大手	ハリスF
20	DAIMLER	0.7%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手	ハリスF
上位 20 銘柄		19.9%				
その他銘柄		77.8%				
キャッシュ		2.3%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 約 500、投資国数: 約 30 カ国。
- ☆組入上位 20 銘柄: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジエトF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: 日本・アメリカが 2 割程度で 1・2 位に。次いで南ア・ブラジル・ロシア・インドなどの新興国が上位に。
- ☆業種別構成比: 消費財・サービスから素材まで 6 業種が 15~12%の比率。全体的に好バランス。
- ☆設定来 6 か月比較では、金融・公益・情報技術が低下、消費財 (自動車含む)・素材・エネルギーなどの景気敏感が上昇。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

節約、保険見直し、資産運用・・・その先はどうする？

ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学



おはようございます！ こんにちは！ こんばんは！ ユニオン投信の清水学です。

昨今のサブプライムローン問題(アメリカの不動産バブル崩壊)から始まった金融危機・世界同時不況が起こる十数年前から、お金に関する相談が増加しています。私のもとにくる相談は、ライフプラン(生活設計全体)、保険の見直し、資産運用、税金など多様ですが、大きくは「節約」と「資産運用」に分けられます。

「節約」と「資産運用」ではその手法は異なるのですが、共通点があります。それは、いずれも“手持ち資金・余裕資金”を増やすことを目的としています(その他に多額なローン等、今日明日の生活をどうするかという切実な問題を乗り越えることを目的としたケースもありますが、今回のコラムでは割愛します)。

手持ち資金・余裕資金を増やすことは、将来の様々なリスクに備えるという意味で重要かつ必要なものです。しかしながら一つ問題があります。それは、「何のためにお金を増やすのか、増やしたお金を何のために使うのか？」ということです。

私の経験上、お金を増やすまたは貯める目的が明確な方はそう多くはありません。短期的には住宅ローンの繰上げ返済資金づくりやお子様の教育資金づくりというものがありますが、長期的には「何となく不安だから」「老後が不安だから」という理由が多いのが実態です。

例えば、幸運にも宝クジに当選したとします。とりあえずは住宅や車、アクセサリなどを買ったり、海外旅行に行ったり、住宅ローンの繰上げ返済などをするのでしょうか。そして、残りの一部は来たる老後に向けて貯蓄しておくのではないかと想像します。それでもなお残るお金は一体どうするのでしょうか？子どもに相続させるという考え方も否定しませんし、「お金は無いよりはあった方が良い」…これは間違っていないでしょう。

しかし、よくよく考えてみると、生活をするため、余暇を楽しむためのお金は必要ですが、それ以外のお金はどれだけ必要でしょうか？また、お金があるからといって幸せになるのでしょうか？大金を相続した子供は幸せになるのでしょうか？大金がかえって相続争いを招き、仲の良かった兄弟姉妹が絶縁状態になったり、社会的にも精神的にも自立できない子どもになったりする弊害もあるかも知れません。

(実際に、“相続”という他人から見ればうらやましい話が、遺族の分け前をどうするかで揉めて、“争族”問題になってしまっているケースが少なくありません。)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見直し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さらにいうと、お金は回ってこそ(使ってこそ)価値が生まれます。単に貯め込んでおくだけでは経済は発展しません。 経済が水面下に潜ったままでは、自分だけは経済的に豊かでも、自分の住む(生活する)社会が悪くなり、安心して生活できない確率が高まる可能性もあるでしょう。

やはり、お金を増やすことを考えると同じくらいに、増やしたお金をどのように使うかを考えることが重要なのではないのでしょうか。「そんな悩みに遭遇してみたい！」と思われる方々の顔も目に浮かびますが、節約や資産運用がうまくいった結果だけを考えるのではなく、増えたお金をどのように使ったら自分は幸せになれるか、たまには思案してみるのも大切で楽しいことだと思います。

お金をお墓へ持っていくことはできません。そうであるならば、少しでも世のため人のために使う、あるいは自分と家族の未来へ・次世代の未来へ・地球や社会の未来へ今から投資することも考え、実行してみる事が本当の幸せづくりに繋がるのではないのでしょうか。

平成 21 年 6 月 8 日記

『ユニオンファンドのリスク』

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの方式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手数料等および税金」をご覧ください。 －

【申込手数料】・・・お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】・・・ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】・・・総資産総額に年 0.84%（税抜き 年 0.8%）の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

〔実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年 1.9%±0.3%（概算）〕

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】・・・信託財産留保金はありません。

【その他の費用】・・・『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 「特定口座」への残高移管手続きが完了いたしました。

「特定口座」の開設に伴う“残高移管手続き”を、5月末をもって終了させていただきました。期日中にお申込みされたお客様の“残高”は、すべて「特定口座」に移管手続きが完了いたしております。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。
また、今回「特定口座」をお申込みされず、ファンドを保有されているお客様におかれましては、これまで通り「一般口座」でのお取引とさせていただきます。

《これから「特定口座」開設をご希望のお客様へ》

「特定口座」開設は今後も随時お受付しております。

ご希望の際は弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

【開設される際のご注意】

「特定口座」を開設いただいた後にご購入されるファンドは「特定口座」でのお取扱いとなりますが、「特定口座」を開設する前に保有されているファンドは「一般口座」でのお取扱いのままとなります。(「特定口座」への移管は制度上できません。)

◆ 定期定額購入について ◆

毎月5日(休日の場合は翌営業日)にご指定いただきました金融機関口座より自動引落としされ、8営業日後の基準価額にて購入いたします。

なお、“新規申込み”“各種変更”には、締切日がございます。締切日を過ぎて届出書類が弊社へ到着した場合には、ご希望される月からは反映されませんのでご注意ください。

定期定額購入スケジュール

引落開始月	新規申込み 引落口座変更 締切日	金額変更 引落中止 締切日	ご指定の金融機関 口座からの引落日	ファンドご購入日 (約定日)
7月	締切りました	6月19日(金)	7月6日(月)	7月16日(木)
8月	7月1日(水)	7月21日(火)	8月5日(水)	8月17日(月)
9月	8月3日(月)	8月21日(金)	9月7日(月)	9月17日(木)

ご不明な点などがありましたら、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。